

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372500102		
法人名	医療法人 渡辺医院		
事業所名	グループホーム えがおをみせて		
所在地	岡山県岡山市南区川張853		
自己評価作成日	令和3年 11月 1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員・利用者お互いがそこに存在して、まるで本当の家族であるかのような自然な環境作りに努めている。また入居者自身の残存能力を発揮できるようような支援を心掛けており、ここで暮らすことで感染対策等徹底し、安心して楽しいと思っただけたり、幸せだと感じていただけるようなグループホーム作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3372500102-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で運営推進会議の開催はできず、参加メンバーに議事録を送付し書面での報告となっているが、報告に留まらず、評価・要望・助言等を聞き取っている。双方向で話し合い利用者のサービス向上に繋げるという運営推進会議が有効に活用されている。外出や面会に制限がある中、グループホーム内での行事を楽しむよう工夫をしている。感染対策をしながら誕生会や敬老会を楽しんでいる。また、食事は利用者の楽しみを引き出す大切な要素として捉え、温かい手作りの家庭料理を提供している。美味しく楽しく食べてもらうことで、生きる力に繋げ、健康維持と共にADLの維持にも役立っている。食事を業者に注文する事業所も多いが、「これからも食事作りを継続していきたい」と職員ヒアリングからも聞き取った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明確化し、事務所内の壁に掲示し全職員が共有できるようにしている。	法人全体の研修や、グループホーム独自の研修で取り上げ、職員の意識付けを図っている。管理者からは「優しい介護・優しい声かけ」と明確に伝え、目線を合わせ、ゆっくりと話す等、具体的な方法についてアドバイスをし、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域との付き合いはできていない。	地域交流は断念しているが、運営推進会議議事録を送付して意見をもらう等、情報交換を行っている。公民館活動の案内をもらったり、地域の他グループホーム管理者と電話で話すこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、直接的な地域貢献はできていないが、介護等の相談には応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っているが、コロナ禍の為書面での対応で、質疑応答などもしている。	書面での報告だが、評価・要望・助言を依頼し、後日、回収に出向いている。双方向の意見交換の場となり、有効活用できている。夜間の転倒報告に対して再発防止の助言があった。具体的な待機者数を知りたいとの要望もあり、掲載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で地域包括センター職員や民生委員、公民館職員と連携をとりながら取り組んでいる。	法改正や実地指導についての質問や相談をし、助言を受けている。感染予防対策として消毒液やマスク・手袋の配布情報もある。地域包括支援センター職員とは運営推進会議議事録を通じて書面でのやり取りがあり、連携体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会・研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。	研修後に、職員一人ひとりが意見や、今回の研修を踏まえてやって欲しい事・知りたい内容を記し、提出している。習熟度を測り、年1回の面談にも活かしている。意識して防ごうことができているかどうか、自分自身の課題としても考えてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会・研修等に参加し知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発を行っている。		

令和3年 自己評価 えがおをみせて

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員・家族に対して、活用できるよう伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適時、同意書を頂くことにしている。またご家族に対しては十分説明をし理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や電話でのご報告や来られた時にご意見、ご要望をお聞きし随時運営に生かしている。	面会に制限がある中、月に1回は電話で健康状態や、暮らしの様子を詳しく報告している。感染予防対策や面会緩和の質問があり、しばらくは緊張感のある衛生体制を維持していくこと、予約制で窓越しの面会を実施することを伝えている。	利用者本人の近況報告は十分にできており、家族からの信頼も寄せられている。さらに全体としての取り組みを知り、理解を深めてもらう為に、家族にも運営推進会議議事録の送付を検討して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書・要望書の受入れや法人運営調整会議の参加等で機会を作っている。	職員は研修・環境・物品・行事・ケア等の班に所属し、積極的に取り組んでいる。意見や提案は伝え易い雰囲気があり、申し送りノートで共有を図っている。コロナ禍の為、買い物回数を控え、配達を利用してはどうかという提案があり、実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力給評価シート(上司・部下相互評価)を取り入れたり、研修をおこなったり、年1回に表彰する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加・自己啓発の重要性を常日頃より推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、外部研修は困難であるが、オンラインや内部研修の機会を設け、日常的に学ぶ事を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の意見を傾聴し、ケアプランに意見を反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族等の意見を傾聴し、ケアプランに意見を反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より十分に話しを伺い第3者の意見もとりにいれながら適切なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切にし声掛等も工夫している。尊敬の念を持ち教えていただく姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員サイドのみのケアだけでなくご家族しかできないケアもあると考え家族に働きかけ共に支えあう姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、入居者様の馴染みの人や場所に外出などはできていないが、電話での交流など関係が切れない様に努めている。	家族の希望があれば、短時間の窓越しでの面会を行っている。電話で話してもらおう等、交流継続支援に努めているが、「忘れられてしまう」と心配する家族も多い。自由に会えない分、状況説明を丁寧に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々同士が、互いにコミュニケーションが円滑にいくよう、さりげなく支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な退去ケースがあるが、相談等あれば、いつでもお聞きますのでと退去時にお伝えするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々のペースに合わせ、ゆったりとした時間が保てるように工夫している。また本人および家族の意見を聞き尊重する姿勢をとっている。	「優しい介護・優しい言葉かけ」を念頭に、普段の会話の中から心情の把握に努めている。好きなことや、食べたい物を聞き取れば意向に添えるよう、職員間で話し合っている。帰宅願望のある利用者は3名ほどいるが、受容し傾聴に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは、家族より情報提供を受けそれらを職員が共有できるようファイルに取りまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の本人の状態等を観察し、本人の意思を尊重しながら興味のあることや生活リハビリを通して生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの場で、意見交換および情報交換し、本人にとってなにが今最優先されるか話し合いプランを作成。4ヶ月に1度プランの見直しを行っている。	ケアプランには身体的な目標と、精神的な目標を入れて作成している。毎日ケアプラン実施評価表にチェックすることで、次回の作成に繋げている。職員はプランを意識した支援に取り組むことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録および申し送りノート等で情報共有と意見交換をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、本人及び家族の意向を受け入れ、必要なサービスをプランに生かしたり関係各機関と連絡を取り合うことに努めている。		

令和3年 自己評価 えがおをみせて

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	適時、本人及び家族の意向を受け入れ、関係各機関と連絡を取り合うことに務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診および受診はもちろんのこと他科受診の付き添いも支援している。	主治医が週3～4回「変わったことはないか」と覗いてくれている。週1回、看護師の訪問もある。利用者・家族、職員にとっても心強い24時間の医療連携体制が整っている。専門科受診も職員が同行し、医療面での安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の体の様子や異常があれば訪問看護と連絡をとり合い相談および助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の家族をはじめ、MSW・看護師等に連絡をしたり訪問して本人の早期退院と安心して帰れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医をはじめ職員より入居時にターミナルケアについて説明をし、家族の意向を伺い同意書をいただいている。	重度化や終末期に伴い、医師・家族・職員とで話し合い、対応方針の共有を図っている。コロナ禍での看取りも経験し、家族から感謝の言葉ももらっている。職員の不安を取り除く為、安心なサポート体制を整えて臨んでおり、職員ヒアリングでは、「取り組んで良かった」との声を聞くことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の施設内研修に各職員は、実践力を養うため参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を実施している。また災害時における食料品をはじめエマージェンシーキットなどを倉庫に備蓄し災害時に備えている。	9月と3月は昼夜想定で火災時避難訓練、11月は法人施設全体で災害時避難訓練を行っている。避難の手順や経路の確認をし、反省点や総評を記録に残し、確実な避難誘導ができるように訓練を繰り返している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容と共感を大切にし、また尊敬の念を持ち、声掛けを行っている。決して乱暴な言葉使いににならないように気をつけている。	職員は意識して取り組んでおり、受容してきちんと話を聞く姿勢を大切にしている。女性利用者には同性介助を心がけ、ノックの後、返事があるまでドアを開けないようにしている。申し送りは小声で行い、プライバシー保護にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し必ず本人に聞いてみる。そして意思表示が困難な場合でも選択肢を設け自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々の意向や希望が日々の生活の中で少しでも生かされるよう支援していく姿勢を保っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む服を第一に考え、季節や天候に合った身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者などが食べたいものを聞いてみることはもちろん、食事の下準備や盛り付け等に参加していただき食事の楽しみを共有している。また行事(誕生日、敬老の日、正月)等に即した食事内容に努めている。	管理栄養士の献立を参考に、食べやすい物や、好みのメニューに変えて、温かい家庭料理を提供している。家族から季節の野菜が届くこともある。外食ができないので、行事に握り寿司をとり、変化を楽しんでもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師や管理栄養士とも相談している。利用者の摂食状況を観察しながら、内容等も個別援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けおよび誘導を行い全介助および一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表(排尿・排便)を記入して、必要な利用者に対しては声掛・誘導等を行っている。	一人ひとりの能力や、習慣に合わせて個別の支援をしている。自立の人も3名ほどいるが、トイレの使用時間を見て声をかけ、排便確認をするようにしている。夜間も、本人の排泄パターンや、快適さを考慮してトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をもとに、食事内容や水分摂取など検討し実行している。また主治医や訪問看護師からも助言等を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、利用者の希望にあわせた入浴支援に努めている。	支援は毎日あり、週に2~3回入浴している。体調の優れない時は翌日の入浴もできる。自立度の高い人も見守るようにし、強い洗身や、長湯によるのぼせを防いでいる。皮膚の保湿に留意し、処方ローションやワセリンを塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室などの環境づくりのため家族に情報提供及び助言を行ったり、個別にあわせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各自が入居者の方々の服用される薬の内容等を把握するよう努めている。また本人の体調の変化などを常日頃観察し主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々に衣食住に関わる本人にもできることの支援や各自の嗜好に合わせた支援を家族の協力を受けながら提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援は困難になっているが、敷地内を個別に散歩したりしている。	もうしばらくは徹底した感染防止対策を継続していく方針で、外出は行っていない。敷地内や、庭に出て気分転換を図ったり、散歩をしたりして、外気に触れる機会を作っている。環境班職員が手入れをしている畑で柚子や柿を見て季節の移ろいを感じてもらった。	

令和3年 自己評価 えがおをみせて

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、買い物に同行したりできていないが、本人の希望があれば職員が購入し渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いてもらったり、電話の取次ぎなど、利用者の意向に添った支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉のガラスを個室ごとに変えたりしている。又、照明もトイレ前のダウンライトを設置しているなど工夫している。	快適な温度・湿度に留意し、時間を見計らって午前2回・午後2回換気もしている。全体の雰囲気にも気を配り、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせる空間となるよう、大声での会話は控えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキおよび畳コーナーがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンス・仏壇を持参していただいたり、また古い写真アルバムなどの思い出のある品々を持ってきている。	ベッド、クローゼットが備え付けてあり、机や椅子、テレビ等を持ち込んでいる。安全な動線を検討し、ベッドの位置を決めている。一人でテレビを見ることが好きな利用者もいる。本人が居心地よく過ごせる環境作りを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理に参加しやすいようにアイランド型キッチンを用意しており利用者が自然に参加しやすいように環境に配慮している。		